

繋（つなぐ）～書との融合で木曾漆器を未来へ～

チーム「『書』どう？」

背景

・書道を学ぶ中で、伝統的な文化や芸術に興味を持った。また、長野県には多くの「伝統工芸品」があることを知り、「木曾漆器」に関心を持った。

・昨年度のプロジェクトを通して得た知識や技能をさらに深めたり、多くの人に発信したりして、地域貢献に活かしたい。

目的

- ①昨年度のプロジェクトを通して得た学びを次世代に発信する。
- ②漆と書道を融合させた作品を、高遠高等学校の生徒とともに制作する。
- ③長野県の伝統文化・芸術である木曾漆器や蒔絵の保存や、次世代への継承に貢献する。

全体の事業計画

本年度

- ・蒔絵と書道を融合させた作品を制作する。
- ・書道、蒔絵、漆器等伝統文化や芸術について専門知を深める。
- ・2月に行われる学生書道展を通して、信州大学の学生及び教職員の皆様、地域の方々に成果を発表する。

来年度以降

- ・長野県の小中学校や高等学校と連携し、蒔絵と書道を融合させた作品を見習生と共同制作する。
- ・学校公開日等を利用し、保護者や地域の方に作品制作の成果を発表する。

本年度の活動計画

- 5月31日：ちきりや手塚万右衛門商店訪問
6月～8月：作品制作に向けた準備期間
9月～12月：作品製作
（高遠高校で全3回の講座実施）
1月～2月：学生書道展
（プロジェクトの成果を発信）
3月：プロジェクトの振り返り

作品製作案



↑木皿に直接墨で文字を揮毫し、摺り漆を行う。

↑色漆を用いて小皿を自由にデザインする。

配慮事項

【安全面】

漆を扱う際、皮膚に直接触れたり、密室での作業による空気の循環の不足を防いだりするため、手袋を着用したり、部屋の喚起をこまめに行ったりする。

今年度は、県内の高等学校の生徒との共同制作活動となる。当該の高校生は初めて漆を扱うため、漆の特性や扱う際の注意点等を作業前にきちんと説明する。

【個人情報】

プロジェクトを通して得た参加者の個人情報は、本プロジェクト以外における使用を一切認めない。また、それらの情報は本プロジェクト終了後適切な処理を行う。

経費

番号	品名、工事名、用務先等	規格、その他内容等	数量	金額(円)
1	材料費・道具代	生漆 200g(チューブ入) 木皿、黒塗りの皿(各1枚) 蒔絵筆 塗り込みをする筆	2 7 3 1	5800 円 × 2 + 4000 円 × 6 人 + 1460 円 + 2500 円 = 39560 円
2	謝礼金	講師講座費(3時間 × 3回分)	1	4900 円 × 3 時間 × 3 回分 = 44100 円
3	講師旅費	木曾平沢 ~ 高遠高等学校の 電車賃(往復)	3	3,040 円 × 3 回分 = 9120 円

計 92780円



質疑応答

Q 高校生や構成員の皆さんが移動する際の安全面への対応があれば教えてください。

A 高遠高校までは長距離移動となるため、移動の際には、可能な限り公共交通機関を利用する。

Q 活動の背景「②作品製作の成果を学校教育や生涯教育の発展への寄与、地域貢献に生かしたい」とありますが、どのように実現する予定ですか。

A 昨年度学んだ作品製作の技術を生かし、本年度は、高遠高校の生徒や地域の方々の作品制作を補助したり、各校における書道展で活動の成果を発表したりする。

→活動の過程や成果を積極的に外部に発信し、初めて木曾漆器や蒔絵に触れた人に興味・関心を持ってもらう。

Q 「木曾漆器と蒔絵について私たちが得た学びを次世代に発信する」という目的が達成された状況はどのような状況でしょうか。

A 本活動に関わった高校生や、書道展等において活動の成果を見た人が、これまで触れる機会が無かった木曾漆器や蒔絵を知ってくれるという状況。

Q 「漆と書道を融合させた作品を高遠高等学校の生徒たちとともに制作する」という活動を、プロジェクトにどのように位置づけていますでしょうか。

A 主軸としては、「昨年度自分たちが得た学びを高校生に発信する」という位置づけだが、木曾漆器や蒔絵の“発信者”として活動を行う中で、自分たちの学びもさらに深まり豊かになることも考えられる。

Q 昨年の取り組みから高遠高校との連携に発展させている点素晴らしいです。5月31日に打ち合わせをされるとのことですが、高校との連携の詳細や高校側の先生方や生徒さんの反応等、教えてください。

A 先生方も含め、初めて木曾漆器や蒔絵の作品を見る人が多かったので、値段や精巧な技術に驚き興味を示していた。また、実際に工房を見学することで、具体的な製作物のイメージも湧き、活動に対する意欲が高まった様子だった。